に、学校としての責任を果すよう一か。それと同じように、人間は、

に努力して来ました。しかしなが「文化創造者としての責任を果すこ」とを忘れてはなりません。ますま

世代をになう者として自立の精神

天をして来ました。さらに、次の 摂取に応じる為に、さまざまの工

文化によるのです。

高い評価も個々の人間の創造する。を目ざして活躍されることでしょの愛と正義のあかし人として活躍

り高い学問の研究や、技術の開発一世界に雄飛する国際人として、神

塩がその味を失ったら、何によっての謙虚さを一忘れてはなりません。以上を以て、私のはなむけの

ん。人類の未来を明るくするのも

言葉といたします。

う。その際、どこまでも人間とし一されることを期待して止みませ

で私にとっては大きな助けとな 君たちとの付き合いをしていく上

り、お互いにある程度気持の通じ

炎ありがたく思っています。この 台う雰囲気を作ってくれたので大

と責任感に充ちた指導者の育成

って塩の味がつけられるでしょう

為に努力し、また、多様な文化の一されるように、人間としてのより

青少年の知的欲求に的確に答える一て、その時代、その国民性が評価

として、手作りの教育を心がけ、

のです。すなわち、文化によっ

かないのです。

が、各自の価値となり評価となる。人間の真の文化は失われて行くは。すべき年に卒業される皆さん、皆

と、文化形成への参加態度の如何のような状態のまま推移すれば、

ります。各自の文化に対する意識したことを示しているからです。こしになさったのです。

に恵まれていなかった創立当初か

学校としてまだ物質的

は文化を通じて、より人間的にな

生徒の全人間的な開発を目標

(1)

生徒の側からの自己開発が期待さ一化の永続的創造者であるという誇し、真の正義と愛のあかし人とし

りと自覚が必要です。しかし、そして、毅然と対処する勇気を、

のためには、人間にこの能力をお

んに期待したいのです。

な精神で常に若人を指導し、また一るのです。従って皆さんには、文

洛星が学校として、このよう|とにより、より偉大な人格となれ

す非人間的な方向に進もうとする

暗くするのも、人間の心によると

現代文明に対し、現世的不正に対

ン・スクールであるということ とは申せません。洛星がミッショ

それだけにとどまるものでは「そのような謙虚な創造者、研究者」来、「この人を見よ」として、こ

への協力が無ければなりません。 与え下さった神、すなわち創造主

めに、洛星では皆さんの入学以

この様な勇気ある若人となるた

なく、ミッション・スクールとい

ただ知識を与えるだけの学校では

の存在価値を示すのは、その文化

も、皆さんの学んだこの洛星は、

のあかし人であれ」という言葉かにし、次の社会に光をもたらす

星

てこそ、正しい躍進をとげ、期待 も知れませんが、この気機があっ

あらためて申し上げたいのです。

質的な豊かさをもたらした事も事一った道を正し、人類の救いの為に

のために努力していることを、今した。勿論、そのことが人類に物

私は皆さんに、洛星はこの使命一の中にしか求めないようになりま

の価値を、ことさら人間そのもの

アトール会創立者、ケルブ神父の

HⅢC担任

則

武

一つのことに思いを

かった。叱られても、罵しられは正に、君達自身の姿を象徴して

どこまでも明る一太陽、新緑したたる大自然。それ

ぬけるような大空からふりそそぐ

私は、君達を思う時、何時もあ

遺徳を挙げることができます。

これは、一見、大げごた表現か

うことです。

として、本日を迎えることが出来

われている一人間とは何か」とい

学園、洛星中学・高等学校の全課

ルであるということは、第一に、 人間の歴史初まって以来、常に問

ることが出来るのです。

御存知のように、今や人類は、

そ、正義をあかし、愛をあかす為

この十字架上のキリストの御姿と

い時があります。一生を犠牲に は、自己の生命を賭けねばならな

卒業生の皆さん、ヴィアトール |ありません。ミッション・スクー |であってはじめて、地上を新にす | なければならない時もあります。

ました事を、心からお意び申し上」う、この人間存在そのものの意味」的、倫理的な目的に役立てること 真の勇者、真の勝利者の姿なので

を、キリスト教精神のもとで理解

さて、私は本日の卒業式にあた。させる場である、ということであ。一餓、貧困、不正をなくすことはで一愛と正義のあかし人となった多く

を学ばなければ、現代社会から飢」す。このギリストに従って、神の

その科学や技術の進歩を、社会に、自己の生命を捧げつくした、

り、第一に、人間的文化をより豊|きません。何故なら、この何世紀|の聖者の中で、特に聖ペトロ・聖

の間、多くの人々が、科学的知識パウロ・アジジの聖フランチェス

前途に幸あれ!

25期生

神の愛と正義との証し人であれ

校

長

村

田

源

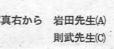
次

の十字架を示して来ました。

真の正義、真の愛を示す為に

京都市北区小松原南町 TEL (463) 3281 (代)

印刷粥吉川印刷工業所



岩田先生(A) 木村先生(B) 荻野先生(D)

題君とのおつき合いであった。

どういう訳か24期生と結びつくる。

中二と高三を連続して担任す

難にこなし、この時初出演の藤

させる原動力になったと思う。事

つづけた高三での学年演劇を実現 である。それがこの数年間空白を一

強烈であったと言わざるを得ませ一の高三での活躍は、いつまでも語 ものは、私にとっては、余りにも一グランプリ、二度の入賞、特にあ

りつがれるでしょう。クラブ活動

井、川西の両君が高校三年間の学

| 来であった。高一でも高校演劇の

遠藤両先生の登場には満場拍手喝

特によっぱらいコンビの前田、

からなるグループが六年間ほぼ同

じ顔ぶれで、つづいたという事実一ありますが、君達の残して行った一てゆきます。文化祭演劇で三回の

年には、夫々の忘れ難い思い出が一史に、数々の記録を残して巣立っ

名作の一つ

「天になく山羊」を無

一までの英語担当、これが25期生

った。なんと劇中の乗客役に担任

全員を出演させてしまったのであ

には黙々と金づちをにぎりスポッ を得ただけでなく、常にその背後

の月日、

本当に

瞬く間に過ぎ去り 方ですが、六年間

に決心させたのでした。

ふり返ると、君達は、本校の歴

月並みな言い

一の学年と心中するんだとまで、

私

この学年の良さはキャストに人

トライトを動かす裏方達の三十人一ました、今まで卒業して行った学

中三と高三で担任、中三から高一その年の話題をかっさらってしま

演劇ひとすじに

HIIA担任

田

君、細谷の藤井君などの好演が光

ラミンゴの川勝君、

タオの川西

卒

業

生

HIB担任

木

村

観

次

あかせない楽しさは抜群で特にフ

しまう結果になりがちであった。

写真右から 様にして持ち上がっていったた

あくまでも平和を 目ざす人に 生を尻目にグランプリを獲得し、 のかと危惧したほどの大作にとり ろな趣向でこの作品にいどみ高校 は小生達担任をあっといわせるよ くんだ訳であった。ところが君達 今更どのようなまとめ方ができる

のになりがちであるのに、人生に と何が何だかわからない大味なも

|対する条情を感じさせつつ観客を||君達の意気込みには担任の方が圧|は、遂に、単語帳事件の高三まで|の北海道の初夏を思い出します。

続いてしまいました。

しかし君達は、

思い出となる舞台にしようという。に、私を異常なまでに怒らせるの

も相当なできばえで中学生として でも二回上演されており、いずれ

本校でも演劇部で三回、学年演劇 本は「轍」であった。この作品は 中三の文化祭に君達が選んだ脚一年演劇の名コンピをつくり上げる

|で文学座のレパートリイにもなっ||子高校生だけであのように上演で

寒劇作者といわれる飯沢屋の名作る。山本有三の「嬰児殺し」を男」を忘れてくる、

みあげるような気がしたものであ一次々と起こりま

い製作をする様子に熱いものがと一につれて、全く啞然とすることが一洛星でも可能であることをしらし

ている作品であるが一つまちがう|きるというのは稀であろうが何と|毛を引きむしらんばかりにして終|全員の力で作られたものなのでし

に宿頃をしてこない。私は、髪の一のでした。これらの成果は、君達

当然のことのようとともに、世間をあっと言わせた した。平然ともの一め、後輩に大きな希望を抱かせる

しても高校最後の文化祭を一生の一ったこともありました。このよう一た。

たが、そのためにどうしても無意 るという珍しいケースになった訳

ことになる

実に楽しいお芝居であった。人生

高二の「崑崙山の人々」も又、「で残って、ていねいできめの細か」の経験でした。

に、いやそれ以上に毎晩おそくま 道具づくりで下級生と同じよう 実昨秋の文化祭のピロティでの大

日、私は、二つの級で激怒しまし一勝、野球部のベスト4入り、中学

中学一年の教室で顔を合わせた一に於ても、英語弁論大会の全国優

た。こんな事は私としてはじめてバスケットの全国準優勝。今まで

それから日がたつ。考えも及ばなかったことが、わが

への皮肉とギャグでは当代随一の

識のうちに両学年を比較してみて

う神から与えられた大切な使命を|情意を具体化したものです。人間|れつつあります。これは物質的に|の中から皆さんを選んで、洛星と|間では、少なくともピクラスの諸|あっても、それが大きな意味をも|シュ会議で大事なことは、参加者 どのようなものであれ、人間がそうに、人間の道徳的感覚は急速に一ろうと、その愛と正義のあかし人一かった、これも云っておきたかっ一界の中で何らかの形で役割を演じ |であります。文化とは、人間の知||対する豊敬の念は目に見えて失わ||故にこそ、六年前、多くの応募者||りです。とくに最後の高三の一年||っている仕事の例え地味なもので 御存知のように、人間の定義が 実です。しかし、現代見られるよ」は、キリスト教徒であろうとなか 一た。今思えば、あれもしておきた して各自が日本の中で、或いは世一って、核戦争だけでなく全ての戦 |麻痺して来ました。人間の生命に | を必要とされるのです。神はその | たと後悔の念に捉われることしき | るわけです。このとき自分の関わ 豊かでも、精神的には貧しくなっしいうミッション・スクールの生徒一君とは膝を交えて話をする機会が 皆さんは、今後、それぞれ、よしと、一益々健康であり、やがては一ったと思うのです。ただ君たちの さんの一人一人が、神の御保護の|について語り合う余裕を持ちたか 学園創立三十周年という、記念|学の話が中心であっても、もっと|な影響力をもつだけに、いい加減 このように、神は現世のあやまう。君たちとは授業と担任を含め、分野に進み、その専門を究めるべ |て僅か二年間の短い付き合いでし|く情熱を傾けることでしょう。 を|など日本の代表的科学者たちによ 持ちまえの明るさと気さくさは、 広く生きざまとか将来の展望とか 多かったことでもあるし、例え進 す。 なりません。一人一人の力が多大 結果を生みだすことにもなるので な気持で仕事をすることが、恐い っているのだとの認識を持たねば 現在地球上の最大の関心事は、

をもって将来に向って進もうとし「年カナダの一小都市パグウオッシ ました。君たちは今、一定の目標一のことです。君たちは、一九五七 りて君たちにぜひ願いたいことを一 今遅まきながら、この紙上を借 ル以上の軍備費が使われていると ざるを得ません。事実かって広島 らく大事な要素となっていくこと|また高くなって来たことを認識せ

識し、正しい道を選んで歩んでほ

しいと思うのです。

いろいろな人間関係を持つ中で恐一ったなどといわれ、戦争の足音が 二十五期生の諸君卒業おめでと一ています。やがて自分で選んだ各 るかということでしょう。人類は わったにも拘らず、最近では世界 し、この上ない苦痛と恐怖感を味 どうしたら真の世界平和が得られ 過去二度にわたる世界大戦を体験 争の廃絶を訴える "ウィーン宣 をしてはいないかというように、 でいる。死の商人。のようなこと を強く認識していることなので と、世界平和と人類の福祉に関し 身の良心のみを代表していること が国や団体などを超越した自分自 いると思います。このパグウオッ れ、後には腸川秀樹・朝永振一郎 の社会的責任などについて話合わ 事態を勇気を持ってかつ冷静に認 他人事と思わず、君たちが将来関 言。の出されたことなどを知って 開かれ、原子エネルギー利用によ て科学者の責任が重いということ る障害や核兵器管理、更に科学者 九五五)に基づき第一回の会議が インらの科学者の出した宣言(一

に、調子に乗る」と言われてきた一るとき、愛を持たないならば、そ

ない」「やかまし過ぎる」「すぐ」友人愛、隣人愛

して来たようです。入学以来、 りましたが、常に君達と共に過ご

「史上最悪の学年だ」「落着きが

神への愛、両親

一愛を実行しなさい」

ュでB・ラッセルやアインシュタ 事の一つであったととを君達にもと、真剣に悩みました。でも、君 何だが演劇オンパレードになって一ても、人なつっこくついてきてくいたかのように、私には思えるの 思いを象徴していたように思う。 のである。 下級生諸君へも伝えたいと思った一達の人間味豊から れが教師として最もうれしかった の演劇へのとりくみに見出し、そ かけてやり抜くという尊さを君達 しまったが、 倒され通しであった。表彰式の折

ような学年、どうしたらいいんだ|万葉集の歌を一首、

以結力が私を大いに勇気づけ、 と

な明明さど、強い

国級 真福在与具

志貴嶋 倭国者 言霊之 所佐

君達を持つことになった時、あの れました。正直なところ、高一ででしょう。

最後に、君達とともに学んだ、

片棒を知らず知らずのうちに担い一ための試験を受けたように。今思 体何をしているのか、即ち戦争を一ちょうど、六年前の三月、雪の降 わっていく仕事の中で、自分は一大きな試練が待ちうけています。 す。とのような動きのあることを一かって進もうとしているのです。

善き人間となれ

排除するどころか戦争を助長する一る寒い頃に、洛星中学に入学する一全学年による演劇を実行させ、 しかし、君達には大学入試という
|させてくれました。生来の明るさ|つである。このうちで最も大いな 目に浮んで来ます。 うと、あの時の君達の真剣な顔が 以来六年間、一年のブランクはあ に終わりを告げ、新しい環境に向一のある、規律正 たちは、六年間にわたる学園生活」を挽回するかの 中学一年の時、君達を担任して「ギーでもって、 諸君、卒業おめでとう。 今、君 なってからは、 と、お祭願者の好きな君達は、高一るものは、愛である。」(コリン 研修旅行、文化祭、体育祭を成功のは、信仰と希望と愛と、この三 ともに後輩達に良き刺激を与えて一人を信じ、その人に望みを抱き、 校最後の文化祭では、数年振りの|トー13・4~13) て行って下さい 「学年演劇」「合唱コンクール」 くれました。今後も、このエネル一その人を愛するように心がけよ しい学年となり、

ように、まとまりる。愛はいつきでも絶えることが それまでの悪評判し、すべてを望み、すべてを耐え 茂 とあります。 ない。……いつまでも存在するも 高ぶらない、勝らない、……そし また、ねたむことをしない。愛は て、すべてを忍び、すべてを信 人に接するときは、常に、その 「愛は寛容であり、愛は情深い。

最後に、はなむけの言葉として への愛、兄弟愛、 何事にもぶつかっ一う。そして、その人の良い所を見 君達が人に接す ら愛される人間となるだろう。 ら信じられ、人から望まれ、人か 習うようにしょう。 そうすれば、自分もまた、人か 今後の諸君の健闘を祈る。

月並み

世の中を見回す努力を忘れてはい これは仕方がない。仕方はないが うな境遇の者が集まっているから

今度、

高

を持った人物こそが、

なりの意味があろう。

## (2) 卒

生

נל

ですが……」 梅景 和彦

い。平和すぎる六年をすごせるの一だけれど、六年もの長きの間、素 校の生徒は外部と接する事もな一交、勉強の場にするのは結構な事 蛙」となりがちだ。学校と家との一されることなくただばんやりとぶ が洛星の唯一の欠点である。後輩 往復で、文化祭やクラブ活動を除一らつくにも、最高の町だと思いま で過すともなると、「井の中の| 史の宿風の様に時間と目的に束縛 い事は言えないが、自分から小さ一意見を求められた時のための、貴 ギャップを感ぜざるを得ない。 に描いた十八歳と、今の自分との一に通っているのだから、青春の六一出が私の脳裏をかけめぐった。友一覧だと感じたそのとき、 見れば一目瞭然たるものだ。しか への助言などという、おとがまし 言試練がなかった分だけ、昔、心一がある。せっかく千年の都の学校 洛星での歳月は、先生方の頭を 六年も同じ顔ぶれで、同じ学校 | のも一趾ですよ。美術の時間と歴 自らを振り返れば、哲学書に パイトをすることもない我せんか。パスを貴重な睡眠、社 取り上げて言うべ 通りだけでは何とももったいない が、道を曲がれば昔ながらの町並 し、将来、京都出身の偉人として 年を過ず足元の環境を見つめ直す いることか? パス通学している諸君は、一度 京都では百m先には文化財らだった。少年は窓に映る自分の いろな出来事があった。私はもっ 達の顔が浮かんでは消えた。いろ

浴

わが洛星

の蛙」達は、よい刺激となるだろ

ともかく、洛星の将来は後輩達

は、どれも楽しい思い出である。

星

「貴える。

勉強せな、

物事の価値感は時の流れで、い

新

くらでも変化する。時の大勢に流一で。

くまとまろうとすることはやめ、

に疑問を持つべきなのやら。

下さい。そうでないと欲求不満に一のを導んでよいやら、自らの幼さ一漢であることを望んだ。手を扱く一年生の文化祭。家に帰るとプロ野」ようだが、勉強に限らず何事にお じることを、せいぜい心に念じて、無邪気な営業を残して学園を去る

あかん

ことが嫌だった。そんな六年間だ。球のナイターはとっくに終ってい

聞

重な記憶になったりするかも?。 「数学よ、消えてなくなれ。」と一ろんな事をやってきた。シニカルーループ数名と鳥の中を数時間走り た傍観者であるより、愚かな映血 はない。いろんな事があった。い「遭難」と夏の燃える日射の中、グ 六年が過ぎた。この六年に悔い 地平線まで H III A 突っ走れ 水嶋

智

べ残して担任の先生に叱られた。

いくつかの思い出がある。

そんな準備期間が続いた。

洛星

deficiency to the compactations are the control to 最も必要なのではなかろうか。

でもすれば、と期待はふくらむ。 も目を向け、困っている人達を何 とか助けようという運動が起こり う。そしていつか、蛙達が世界に ところで、これは日本全体の問 の努力にかかっているのである。 さらば 朝礼の笛は遠のき 衣笠山はかすみゆく 「ところのもの」も一懐かしく

き方を振り返ることには大きな意一

洛星に栄光あれ

たかも知れない。でもそれはそれ

験が入試全体の3分の2近くを占しは繰り返し、一冊をものにしたで、努力を続ける。

まちがえた所は特に注意して3回

のを信じて腰を据えてじっくりと

ます。問題集は、これと決めたも

に臨む心構えを書き連ねてみる。

社会であったことは、誰しも認め」ち。大切なのは集中力と、どの科

今年の一次の明暗を分けたのが一むしろ本番であることを 忘れが

₩ H III A

関

サイナラ

だ。この機に自分のこれまでの生

卒業は人生の大きな節目の一つ

いことができ、言いたいことが言一つけるためには大変役立つ。しか 先生方と握手を交す卒

える学校、知り、創り、体を動か

りない。

し、それがすべてとなっては物足

業生

だけで卒業号の原稿を書くとは後

高二で一年間新聞局に在籍した

現在、運が良ければもうすぐ大一自分の意見に費同が無ければ不機のころと今とを比較してみると、

訳では無いことを知って欲しい。

第二に、皆同じ事を考えている

HIID

篠原 尚吾

なんの因果か、名前だけ貸してく りながらこう決心したんだ。でも 自己嫌悪の気持ちでいっぱいにな

れ、とタブローの総務に入れら

れたら、挽回 を使えばいい。

嫌になる人は見ていられない。

最後に、何事も盲信しないよう」う。小学校の頃の僕はかなりの億一などとからかわれながらも、

なん

だいぶ性格がかわったなあと思っ先生に「今度は旅行、行くな」

小学校を卒業して、早六年。それ、ずるずるのめりこんで行っ

て、ついにはチーフに選ばれて。

H III B

ラクセイ

分、またそれについて誰とも話す抱くことで成績は上がるものだ。

ても判断を下す柱があいまいな自

て自信をもつのでは無い。

同時に、人生の大きな分岐点に来」と信じよう。成績が上がって初め

卒業するに

副会長の任期が終わった時には一

447447474747447447444744744744744

あたって

事が無かった事に不安を感じたの

いやいや毎日の授業までも。した

受験勉強は、知識を集中的に身に が少なかったことである。確かに とは、物事を深く考えざせる授業 題でもあるが、一つ残念だったこ

い学校、こんな居心地の良い学校 き友に恵まれ、うるさい女のいな す喜びのわかる学校、良き師、良

そうあるものではない―。

都合のよいもので、思い出される

この六年、振り返るにはあまり

H III B

小川

のは、もはや楽しい事ばかりであ



来るふりをして、有りもしない威 して、自分が出来もしないのに出

い人は言うまでも無く、悪いと思

まず、自信を持とう。成績の良

しい。社会へのステップで仕方無

二十五期が散り散りになるのは寂/室の鎌ば壊すわ、クリスマス期間

いけれど……。では皆様、

お元気

わるまい。

後のパーティーの時も一人いじけ

て倉庫の掃除をするわ……。

「もう二度と学校行事にはかか」りと大切な事を得たと思ってい

て、そんな気分になれない。

も、僕は右の二つの経験から、わ

「美酸」になってしまったが、で

なんか我ながらしらじらしい

中に、無責任にも旅行するわ、最

で無く、ただやろうとしていなか

価値基準しか無い事が残念だ。 深まったとは思うもの中途半端な 学というのに、高二よりは考えが

勝手気ままな雑談はこれまでに

、テニスラケットを持ってフチ

星に入って、最初にそれがもろに

うれしかったね。

前のことで「挽回してやろう」

かも知れんが、

発覚したのが、生徒会。もちろん

ヤく」と言うのがナウイとは…。

洛星を出るのに未練は無いが、

うまくいったはずがない。生徒会と思っていただけに、本当にうれ

かったー。

後

りしない。なにかがあるようで、

|にのしかかる重圧が重い程魂が奮

いたった。きのうの悲しさは今は

つかもうとするとパッと消えてし

まう、そんな感じだった。もどか

もうない。私は妙に感動してい

廂の隙間から 一条の光 が漏れ出

少年は駅に降りたった。駅舎の

しく、悲しかった。いつのまに眠

た。そして

HIIC 清

されないで、やりたいことに向っ

てただ突っ走ろうとするのが今の

心境だが、四年、あるいは五年後 にはどういった感慨を胸に秘めて一る海も初めてだった。「新しい生」いた海とは全く違ったど子黒い海 初めての長旅だった。これから見 活が始まる。」少年は母の餞別の一だった。嵐の中、波と波とが重な 少年は夜汽車に揺られていた。 く海だった。が、少年の想像して 少年が窓の外に見たものはまさし ったのだろう。次の朝日覚めると

歩いて家主で帰ってはどうです。た。外は雨が降りしきってまっく一つかっては砕けていき……。少年 にきりめしを二つ口にほおばっ 顔を見つめたそのとき、 り合い、しぶきをあげ、岸壁にぶ は雨にけむる窓から身を乗り出し て海をみつめた。全てを拒絶し、

生まれ育った谷あいの村の思い

と深く思い出そうとした。けれど、生きるのだ。」海が恐ろしい程、 きたっていた。「この海を相手に」年たてば自然に脱げ出てしまう。 そこに存在する海。海は自分に冷 私は知らず知らず全身の血がわら脱け出したいのは当然。でち数

最後に後輩へ。洛星が「温床」

も毎日の生活がどうしてもはっき」かえって私はうれしかった。前途
ハイッ紙がつきた。サヨナラ。 逆に「温味」を図太く利用したら。 だといわれて久しい。「温床」か

行ったのだが、道に迷い、「すわ |既を 微慢と 認めるには自分はあま | え世の中の 常識とくい違っていて 事。コース別研修で長崎の黒島に一今の自分は何も恐れない。この気一ゆくという事である。それがたと また中学三年生の一研修旅行での一に満ちた旅かもしれない。しかし一自分の頭でものを考えて行動して 箱の蓋にくっついていた米粒を食」の自立を意味する。それは新しい 旅立ちでもあるのだ。失敗や挫折 後端諸君へ。我々は一足先に走

本番の最終日、賑わう会場をよそ一やがては君達にも卒業する時が訪しわない。自分の青任に於いて多少 ともあった。卒業する今となって一だ。その時頼れるのは自分だふで一年間、僕の生き方はこうだった。 閉会式の挨拶の練習をしていたとしもう君達を守ってくれなくなるの に、誰もいない新講堂の屋根裏で一れる。「洛星」というブランドは ある。今の間に自分を磨いておく 低い次元で妥協してはならない。 いても常に貧欲であってほしい。 洛星での六年が幕を閉じた。 は、全く風変りな妙な人間に映っ

世の中には共律とか道徳とか、 Ⅱ

に入学して三日目の屋休み、弁当|―義がある。また、卒業は洛星から|常識では白とされているものが明 利は残されている。

である。

共通一次直前往意义。☆一週間

ように落ち着かせる事が大事で

す。

苦痛を感じない鈍感さ、政経は真

の実力……など。

V

HIIC 張

₩ H III A

川嶋

とむと命取りになります。試験中 度も復習する事。年明けにもつれ です。理・社は早めに仕上げて何

肢の嘘を看破する力、数字は直感

して持った感想は――国語は選択

終えて

りにも若い

やりまくった。だから他人の目に 我々にはそれだけのエネルギー

卒業雑感

HIID HIID

義弥

定の規準となるものを決定する権一青春時代の思い出を分ちあえたの を評価してはならないという事で そういった既成の概念のみで人間 所詮人間のつくったものであり、 ヒト同様に、我々にもそうした判 言わせてみれば、そうしたものは なるものが存在しているが、僕に ある。
洪律や常識とかを決定した
| て追い続けていた。僕がそういっ そしてまた全く掴み所のない常識

新しい世界へ、希望がふくらむ。 ように思い出が横切るとともに、

六年間が過ぎ去った。走馬燈の

×

また、洛星でお会いしましょ

う。

ないのだ。だから大切な事は常に 日になれば黒と言われるかも知れ と思っているからその時点での常 加減で、ただ多数のヒトが正しい 配というだけなのであって、今日 だいたい常識というものがいい

共通

一次を

いう位の心構えで臨んだ方が無難 めるわけだから「一次が万事」と

という充実感を味わうことです。

HIIB 近江

回ったこともある。そして高校二り出す。人生論めいたことを言う である。 事。 ◆新しい暗記よりも暗記した それに向かって突進して欲しいの 程前から「朝型」 に 直して おく 自分で正しいと信じるなら、

の失敗は若さ故に許されるのだと
|共通一次は単純だから第一印象で | 冬休みまでは、英国数の不傷意料 自分の思う通り、メチャクチャに一祈る。 ら、一八〇度方向転換してもかま。まで正解を見るな☆子り紙は必ず がある。途中で間違いに気付いた「有效(部屋は暑い)☆□日日終了 いう聞き直りも必要であろう。六一勝負せよる試験場での勉強はみじ一日征服に全力をあげて下さい。理 持参の事(京大には紙はない)☆ | 水ず勉強量に比例します。高≡のまで正解を見るな☆チリ紙は必ず | 共通一次は制細量も大切ですが | ▼H III B | 藤野 めったらしいのでやめよ。成功を一と社はそれからでも十分間に合い 事を確実に

会当日は

冷しタオルが 関西の殆どの大学では、一次試

でいいと思っている。 過去をいくら追憶してもはじま

々の思い出は永遠に残る。 た人間味のある素晴らしい奴等と 自分の思い思いの道を必死になっ い居た。そして彼等の一人一人が、 枠には納まらない様な奴がいっぱ 校には個性豊かな、とても常識の 時間が過ぎてしまった。でもこれ 必死になって晩いているうちに は全くの幸福であったー だけは確かに言える。 ― との学 れまでもずっとそうだった。何か ある事だけで精一杯だ。思えばこ らない。僕は今、自分の目の前に と。我

クラス分が増設されるにおよび、

身の一つの歴史もその幕を閉じ すると同時に、洛星中高等学校自 との思い出深き学校生活が終了 昭和五十七年度から、高校に一

HIIC 由良富士雄

学旅行、模試、共通一次等。 校進学、高校の学年末、高2の修 験、文化祭、中3の研修旅行、高 な事があった。入学式、定期試

化させる事も出来るのである。す

このような開拓者になれるのは

者であろう。自分たちの手で、学

今の在校生や、新人生は、開拓

風かを含込まれる事であろう。

我々は今 学校を去る

けた生徒が入学して来るのだ。

変化があるという可能性より、

の国の将来をつくるのだと。 自分だけ。自分で自分の将来、そ 的ノンビリした所がないとは言え一るのかを考えるよりも、自分の夢

ない我校に、高校入試の洗礼を受一を考えた。そこで役に立つのは、

思えば、この六年間にいろいろ一きいという事はないだろう。 た感じになるかもしれない。 変化がないという可能性の方が大 ともかく、これからどうなるか一べて自分たちの思うがままであ 全体が、今に比べピリピリとし一校を今以上に発展させる事も、退

は、フタを開けなければ、わからる。 しかし、逆に、前途には人がま一長い人生でも、そう簡単にいかな

今までの洛星の学校生活全体に新 | 西部のように開拓者を待っている | 学校を発展させてほしいものであ いだろうか。 が広がっていると言えるのではな一すべて自分の物になる代りに、失 だ手もつけた事のないような世界一いだろう。だが、そこでの成功は

**転校**告があるとは言え、

比較 土地のような物だろう。 それは、千八百年代のアメリカ 敗も自分の責任になる。

西部開拓者は、前途にならがあ る

望むらくは、過去の洛星以上に

共通一次を受けて、各科目に対一を通らない。ではよい一次を。 一の権威によらない。のテレビに映 ろうとしてレポーターの前ばかり ▼ 田 田 口 中井

は非常に焦るので、木文読み落と一で答を書く大胆さ、英語は読むスーを出す者もいれば、そうでない者 しや勘違い、計算間違いをしない。ピード、物理は自分の答に陶酔ししいる。人利定を一〇〇一貰った ない冷静さ、化学は丸暗記に耐えところで大学は関知しない。(こ る忍耐力、日本史は覚えることに | こで写んではいけない) 内には入れない。試験が始まると 落ちつく。当日は早過ぎると建物 下見は特に必要ないが、気分は 要するに本番である。実力以上

ることであるが、ここでは、一次目も落とさないガメツさである。 訂正とお詫び

余裕を持ちつつ徹底したミス発見 を出して、手が疲れたら今度は頭 えればいい。なんでも積極的に手 若いうちは前進することだけ考し容だった」の後に「今年洛星がべ ①模試の結果を信用しない。② して見返してやれば一に訂正し、深くお詫びいたします。 失敗してバカにさ ③やたら神社仏閣 スト4に進んだのは流石だった。 いう文が欠落していました。ここ 30周年に甲子園へと祈ったが」と 氏寄稿)の後半部「……という内 「ダサイお坊ちゃん」(20 期極田 昨年12月発行の特別号中二面の

/編集後記/

に。音楽嫌いがヘッドホソつけて「病者で、いじけ虫だった。で、洛」とか成功(?)させた。さすがに「はできる。真直進む奴より曲りく」いきたかったのだが、どうやらい ら、絶望して脈になる。曲がりく 面積では自慢できる。自己嫌悪に一つもほは一新となる次号以降に期 ねれば遠まわりでも行きつくこといく。最後も前号の様に華やかに |落ちいったら倫社の教科書を読め||待して最後に一言、「つぶしたら ねって行く奴は遠くまで行けない一つものカタい字だらけ新聞に戻っ 真直に進むことだけを考えるか 少なくとも進んだ てしまった様だ。そこで、スタッ かわってHI以下が局を運営して この号を最後に現局長は引退し

ばいい、青年の特質として、自己あかんぞ!」 るのを見れば、あばらしくなっ(1)局員山川(1)相馬(1) 嫌悪に落ち入りやすいと書いてあ 局長 寺谷(里) 編集長 山根 河本(2) 中村(2) 関(2) 近東(2) 奥田(2) 加藤(2) 樋口(2) 芦原(1)